

IT時事ネタキーワード「これが気になる！」(第100回)

「メタバース」って何だろう。仮想世界で売買も

2022.07.25



最近よく聞く「メタバース」(Metaverse)という言葉。「Meta(超)」と「Universe(宇宙)」を組み合わせた造語だ。SF作家であるニール・スティーヴンズの「スノウ・クラッシュ」(1992年発表)に登場し、その後、仮想空間サービスが実現した際に英語圏で主に用いられるようになった。

メタバースとは？「Meta」と「Universe」、現在と違う次元の世界

一般的には「仮想空間サービス＝メタバース」とみてよいだろう。「多人数が参加可能で、参加者がアバターを操作して自由に行動でき、他の参加者と交流できるインターネット上に構築される仮想の3次元空間」と定義できる。利用者はパソコンやスマートフォン、VRデバイスなどから仮想空間にアクセスし、自分の分身としてのアバターで会話や交流を行ったり、ゲームをプレイしたり、さらには街や建物を散策、会議やイベントに参加したりする。

こうした仮想空間サービスの先駆けは、2003年に米国で開始された「セカンドライフ」だろう。スマートフォンもないパソコンの時代から、3DCGで作られた仮想世界に数多くのバーチャル体験やコミュニティーが存在し、大手企業や教育機関はイベントや遠隔会議のために、セカンドライフ内にソーシャルスペースを提供してきた。なお、セカンドライフはメタバースサービスとして今も健在だ。

なお、コロナ禍において世界中で人気を博した、「Minecraft(マイクラフト)」「FORTNITE(フォートナイト)」「あつまれどうぶつの森」(2020年リリース)などのゲームも、メタバースの1つとして語られる。

仮想世界にアバターで参加し生活も。米フェイスブックが「メタ」になる？… 続きを読む